

# 滋賀の生涯学習社会づくり基本構想

## はじめに

構想期間：平成23年度（2011年度）～平成27年度（2015年度）

### 策定の趣旨

- ・ 厳しい経済雇用情勢、深刻化する環境問題、国際化・情報化・都市化の進展や、市町村合併により50団体あった市町村が19市町となるなど、社会は急激に変化しており、新しい課題が発生
- ・ 教育基本法が改正され、「生涯学習の理念」が教育に関する基本的な理念として新たに規定

### 構想の性格

- ・ 県民をはじめ地域、ボランティア団体・NPO、学校・大学等、企業等、社会教育施設等および行政の各主体が連携し、滋賀の生涯学習社会づくりを推進するための指針

## 第1章 基本的な考え方

### 生涯学習社会づくりの意義

いつでも、どこでも、だれでもが、主体的に適切な方法で学び、学んだことを生かし、心豊かでいきいきとした人生を築くとともに、一人ひとりの人権を尊重し、地域において互いに連携しながら様々な課題の解決を図っていく生涯学習社会づくり

- 自立した個人の形成
- 学習を通じたきずなづくり
- 豊かな地域づくり
- 協働の推進

### 生涯学習社会づくりで大切にしたい「滋賀らしさ」

- 環境 琵琶湖や周りの山々など自然を大切にする環境意識
- 歴史・文化 豊富な文化財と新たな文化の創造
- 近江の心 大切に守り育て未来につないでいくべき先人たちの教え

### 滋賀の生涯学習社会づくりの現状と課題

- 生涯学習を行う県民の割合（64.0%）→全国平均より17ポイント高い
- 生涯学習の目的 「楽しみや生きがい」（59.9%）  
「地域や社会に役立つ活動のため」（25.8%）
- 大切だと思う学習課題 「環境問題」「高齢者の生きがい活動」「健康の維持・増進」

環境、歴史・文化、健康、働く、子育て、人権、国際化、情報化、その他の分野の課題について主体的に学び、その成果を自らの生活や仕事に生かすとともに、地域課題につなげていくことが重要

## 基本目標

つながりで未来を拓く 滋賀の生涯学習社会づくり  
～まなぶ いかす つながる～

## 基本目標を達成するための3つの柱

### まなぶ

～個人と社会のニーズに応じた学びの充実～

#### ア「まなぶ」の2つの視点

「個人の要望」 生きがいや経済的安定のための学び  
「社会の要望」 現代的課題に関する学び

#### イ「いかす」や「つながる」を意識した学びの工夫

#### ウ 滋賀の良さを実感できる学びの機会の提供

### いかす

～学びの成果を生かす機会の設定と拡充～

#### ア「いかす」機会の重要性

学んだ成果を「いかす」→いきいきとした人生  
→地域の教育力の向上

#### イ「いかす」場の設定

#### ウ「いかす」につなげる評価

### つながる

～学びを通じた人と人、人と社会のつながりの推進～

#### ア つながりの構築

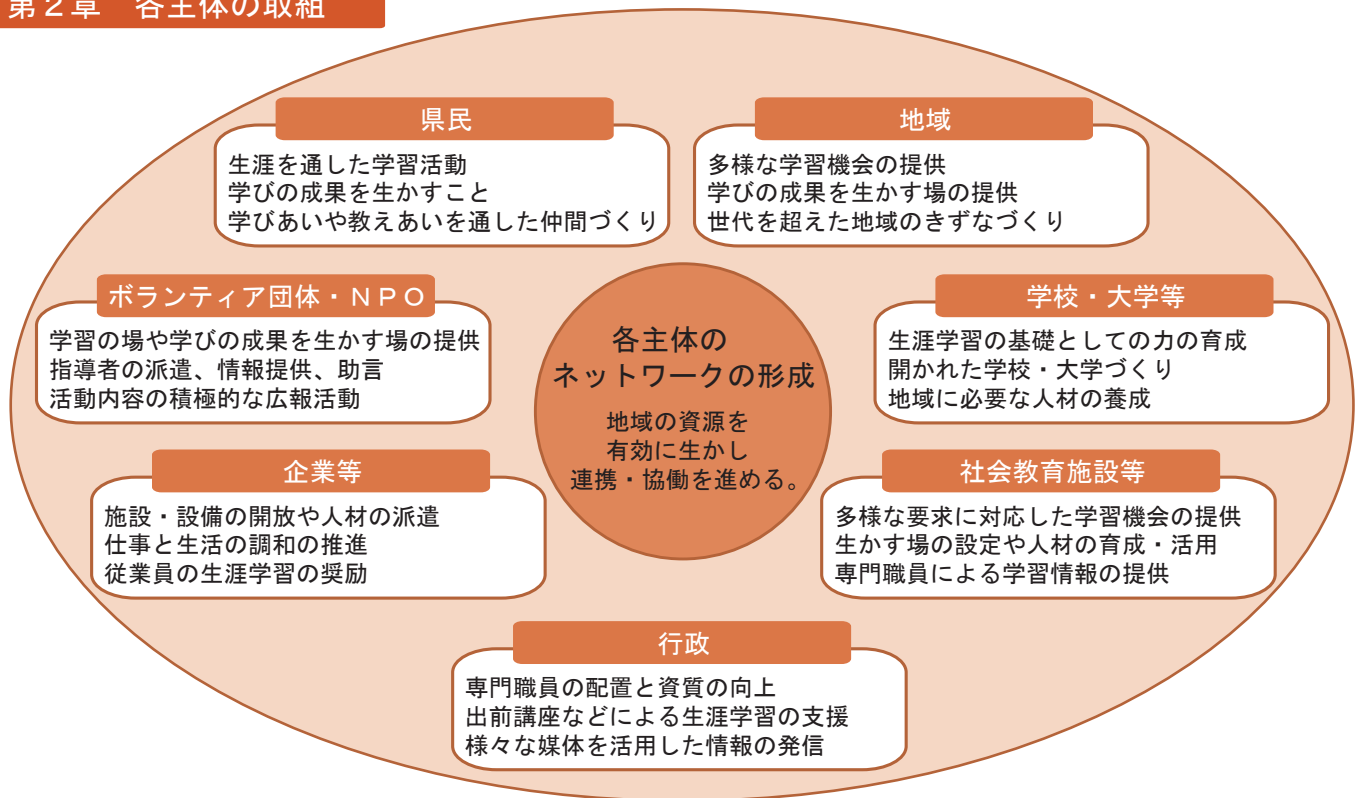
学びを通じた人と人、人と社会のつながり

#### イ「つながる」機能の充実

#### ウ 情報の提供

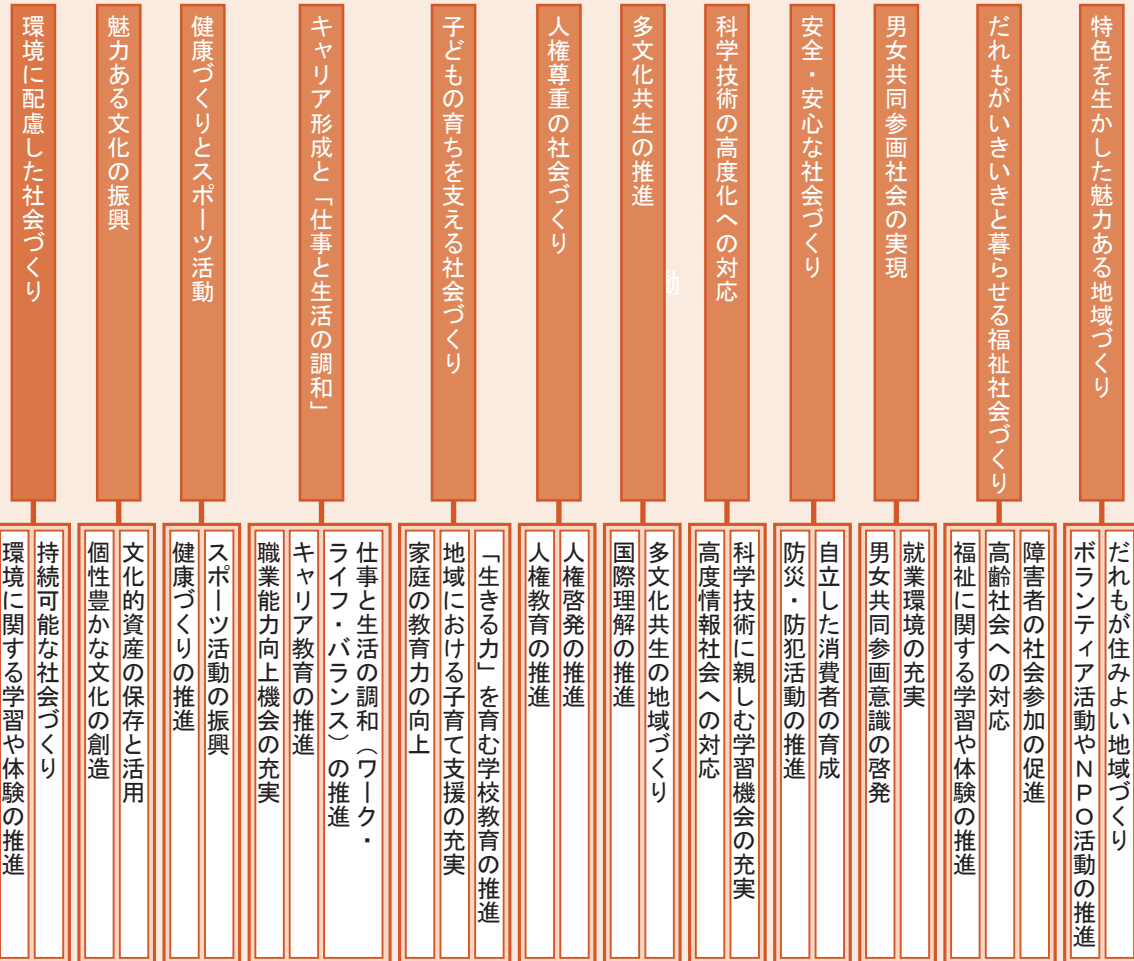
「まなぶ」情報、「いかす」情報

## 第2章 各主体の取組



## 第3章 県の施策の総合的な展開

### 「生涯学習の各分野における施策の推進」



### 「つながる」環境の整備

- 生涯学習を支援する人材の育成
- 交流と情報交換の場づくり
- 学習情報提供・学習相談の充実